

「老人施設を訪れて…」

エッセイスト 風間佳

このところ、機会があつていくつかの老人施設を見学した。
ひと言で「老人施設」といっても、実にさまざまだ。

入居者がどれほどの介護を必要とするかによつてもさまざまだが、
建物の新旧、設備の充実度も本当にさまざまだ。
そして、入居費なども何十万円ですむ所から何千万円の所まであつた。
また、そういった規模や介護状態とは相関関係なく、雰囲気もさまざまだった。
施設内を流れる空気などは、その施設の経営者や運営者の人柄によるのだろう。

結局「老人施設」というのは、
高齢になつた人が暮らす所、一時過ごす所ということなのだから、
我々が家を探す場合と同様、千差万別、ピンからキリまであるということなのだ。

施設もさまざまだが、そこに入居している人もまた、さまざまだった。
施設によつて全体的な雰囲気は違うのだが、
どこの施設に行つても、ニコニコして幸せそうな顔をしている人もいれば、
不満そうな顔、つまらなそうな顔、悲しそうな顔の人もいた。
施設が幸せをくれるのではない、その人の考え方、心のあり方の問題なのだろう。

いろいろと思うところがあつた。
胸を打つ思いもあつた。逆に、胸が締めつけられる思いもあつた。
いやがおうでも、自分の時はどうだろう…と考えさせられる。
私などそう遠い話ではないかもしれないのだ。

40代になったら、元気なうちに何ヶ所か見学してみると良いと思う。
いずれ必ず出会わなければならない「老いた自分」に思いをはせ、
その時の身の処し方を考えると、今の過ごし方にも良い影響があると思う。
今、人生設計とかライフプランニングとかがはやりだが、
こういった老人施設などを訪れると、人生設計は本当に必要なこと、
仕事よりずっと重要なことだと思えてくる。

E1C-0038-rogo